

学校の沿革

大阪医療看護専門学校は2010年4月1日付で設置されることを同年3月31日に大阪府知事より認可されました。これに基づき、学校法人大阪滋慶学園においては大阪医療技術学園専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校、大阪保健福祉専門学校、大阪医療福祉専門学校に続く、第5番目の専門学校として開校致しました。

本校は看護学科（昼間3年課程 1学年定員40名）を設置し、独立行政法人国立病院機構 刀根山病院の敷地内にあり、看護師としての基礎的な知識や技術だけでなく、地域の方々の身近な存在として慕われている、伝統ある刀根山病院と隣接するという恵まれた環境の中で、時代のニーズにあった看護や先端の看護を学びます。また、臨地実習では刀根山病院をはじめ、各医療機関と連携して地域医療も学び、保健・医療・福祉分野の人材を養成している滋慶学園グループの1校であるというスケールメリットなどを活かして、看護師として視野の広い人材を養成していくことを目標としています。

現在の日本社会は保健・医療・福祉分野において様々な諸問題を抱えており、大きな変革の時期を迎えています。少子高齢社会への移行に伴い、医療・福祉の各制度改革の必要性が求められ、その改革・進展に沿って新たに必要とされる人材育成が不可欠なものとなります。それぞれの現場においては専門的な知識や技術の卓越さだけでなく、自らが置かれている現場においての即応性や創造性、人間性がますます問われることになるからです。

また、医療技術、医療情報は著しい進歩を遂げており、医療機関を始め、看護・保健・医療現場ではコンピュータを活用する業務能力が不可欠なものとなっています。

更に今後、ますます進展する国際化社会においては、英語コミュニケーション能力も必須となってきます。

全ての滋慶学園グループ校では、実学教育、人間教育、国際教育の実践を共通の基本的理念とし、その上に各校の専門領域に即した教育目標、教育方針の理想を掲げ、教職員一同その実践に努力しております。本校ではその教育理念に基づいて、看護師としての専門的な知識や技術の修得はもちろん、生命の尊厳と人間愛を基盤に上記の求められる能力をいかに確実に教授し、優れた人材を育成して社会に送り出すことができるかが本校の責任であると自覚しています。